

「シェアリング・エコノミーと消費社会」

B4R11173 丸山優菜

概要

最近、よく耳にするようになったシェアリング・エコノミーとは一体何なのだろうか。平成 27 年度情報通信白書によると「シェアリング・エコノミー」とは、典型的には個人が保有する遊休資産(スキルのような無形のものも含む)の貸出しを仲介するサービスであり、貸主は貸出すことによる収入、借主は所有することなくそれを利用することができるというメリットがある。貸し借りが成立するためには信頼関係の担保が必要であるが、そのためにソーシャルメディアの特性である情報交換に基づく緩やかなコミュニティの機能を活用することができる。」と述べている。この頃シェアリング・エコノミーに属するサービスはインターネットやスマートフォンの普及によりますます活発化されていて、街づくりの理想の形ともされる意見がある。消費社会において将来的にシェアリング・エコノミーは希薄になった地域の人々の関係を結び付け、地域の課題を解決することができると考えられる。

本研究は、シェアリングという新しい概念を対象としているので、先行研究とともにアンケート調査を用いて研究資料を収集し進めていくこととする。

本研究は、5 章構成である。まず、第1章、シェアリング・エコノミーと消費社会の背景を調べ、シェアリング・エコノミーの社会的な立ち位置に関する仮説を構築する。第 2 章、先行研究を行う。第 3 章、メルカリを代表とするシェアリングサービスや、その他の海外サービスについてのアンケート調査、二次データとその解析を行う。第 4 章、課題の解決策を検討する。第 5 章、まとめと反省点を振り返り、シェアリング・エコノミーの持つ社会的意義とその検討課題を、消費社会の面から検討する。